

研究課題「造血器疾患の治療合併症における常在細菌叢の意義」について

研究責任者: 東京大学医科学研究所附属病院
血液腫瘍内科 小沼貴晶

血液の病気の治療法である抗がん剤や造血幹細胞移植では、抗がん剤による影響の一つとして白血球のうち、とくに好中球が減少します。好中球が減少すると、38度以上の発熱を認めることが多く、細菌感染症を併発している可能性が高いため、抗菌薬の投与を開始します。この発熱の検査では、10-20%程度で血液に細菌が認められますが、原因の明らかでないものが半数以上を占めています。発熱の原因として、抗がん剤による口や腸などの粘膜に障害が起こることによって、口や腸に生息している細菌が血液中に侵入し、発熱を引き起こすと考えられていますが、明らかではありません。

そこで、私たちは、平成26年1月末より、臨床検査で余った唾液や口腔擦過検体、便、血液をご提供いただき、口や腸に生息している細菌が持っている特徴的な配列の核酸（遺伝子の一部）を検出する標記の研究「造血器疾患の治療合併症における常在細菌叢の意義」（25-62-0131）を行ってきました。研究期間を平成30年3月までと予定しておりましたが、研究の進展より、継続して研究を実施することにいたしました。

つきましては、同研究でご提供いただいた試料・情報を、今後も引き続き本研究に利用させていただきたいと考えております。

1. 対象となる方

平成26年1月31日～平成30年3月末までに、血液の病気により東京大学医科学研究所附属病院血液腫瘍内科で抗がん剤や造血幹細胞移植を受けた患者さんで、研究「造血器疾患の治療合併症における常在細菌叢の意義」（25-62-0131）にご同意いただいた方

2. 研究に用いる試料・情報の種類

研究「造血器疾患の治療合併症における常在細菌叢の意義」（25-62-0131）でご提供いただいた試料（診療上必要な検査で余った唾液または口腔擦過検体、便、血液）及び診療情報

3. 研究期間

2018年3月28日（所長・附属病院長の許可日）～ 2023年3月31日

4. 研究参加の辞退について

試料・情報が本研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありませんのでご安心ください。

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

<お問い合わせ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先>

東京大学医科学研究所

血液腫瘍内科

小沼貴晶

助教

03-3443-8111 内線 75025